



Ho! ManaBUしんぶん

子どもの笑顔に会うために！

プロジェクト
対象13県



○ オロミア州

「Discover our school」トライアル第2弾！

しんぶん前号では、デヤ・デベソ小学校で行ったHo! ManaBU 研修2年目の教材「Discover our school」のパート1のトライアルについてお伝えしました。これに続き、都市部の大規模校での反応を探るため、先月、3回にわたって首都アジス・アベバから約40キロ南東にあるデブラゼート特別市のボレ小学校（関連記事4号・9号・10号・19号）でトライアルを行いました。ボレ小学校は全児童3,500名余りの半数以上を女児が占め、教員も全75名中50名以上がベテラン女性教員です。中学校進学率も高く、保護者や地域住民からの寄付金も年間100万円単位で集まるというすごい政府校です。

【パート1：教員が学校の現状を調査・分析し、学校の見解をまとめる】



各学年の1教室当たりの児童数を担当した教員の見事な調査報告！

まず、パート1セッションIで、「Discover our school」クイズにそって、学校のトイレや校庭、中途退学率などの状況を探るため教員10名が調査を分担。翌週行われたセッションIIで、各調査の結果が参加教員に共有され、内容について話し合いました。大規模な学校だけに、入手できるデータや情報が非常に多く、担当教員も大変丁寧な調査ぶり。続いて、調査結果に基づいて、内容やデータの出所の妥当性について議論。5つの選択肢の中から、その項目の状況をもっとも適切にあらわした記述を学校側が選んだ答えとして決め、最後に、学校として各項目について今後どのように取り組んでいきたいかを話し合い、分析シートに記入しました。私たちが時間を心配してしまうほど、各項目について熱心に話し合っていました。研修の狙いを考えると、「分析⇒学校の取り組み」というプロセスについては、もう少し突っ込んだ話し合いが必要で、そのためのファシリテーション能力の向上も大切です。

例えば、給水設備のクイズ。学校の給水状況を調べた教員は、「学校には水がありますか？」というクイズに対して、「設備はあるが児童数に対しては不足している

などの理由から、「安全できれいな水はあるが、水道が止まると水が使えなくなる。」という4番の選択肢をもっともふさわしい解答として提案しました。ところが、分析の段階では「タンクがあるから、水は供給できる。」という意見が多数派を占め、結局、学校としては「安全できれいな水があり、給水タンクにも十分に水がある。」という最も望ましい状況を示す5番に変更されました。確かに、ボレ小学校には、水飲み場や給水タンクが設置されていて、エチオピアの小学校としては非常に恵まれた環境にあります。しかし、調査教員の指摘した通り、児童数に比べ水飲み場は小さく、その上、蛇口のひねり口は無駄使いを防ぐために常に取り外してあります。このような面を改善点として認識し、いかにによりよい環境を作っていくか、この研修を通じて学校側に考えてもらいたいところでした。



調査結果を発表し、みんなて話し合い。

【パート2：学校の現状を地域住民に知ってもらう】

パート2のトライアルは、PTAや地域住民、特別市教育事務所（STEO）行政官などの協力を得てパート1終了後、約2週間後に行いました。参加者約30名が6チームに分かれ、「Discover our school」クイズに挑戦。「女児の占める割合は？」や「女性教員の占める割合は？」というクイズでは、「全学年女児の割合は50%以上」、「全教員の50%以上が女性で管理職に就く者もいる」という記述を含む解答を全チームが迷わず選択。学校と住民との認識が一致していることはもちろん、「こういうことを知った上で、自分の子どもをボレ小学校に通学させるんだなあ。」と実感しました。逆に興味深かったのは、上述の給水設備のクイズ。「学校側が合意した解答は5番です。」



「最も長い通学時間は何時間でですか？」解答カードを使って、各チームが答えを提示（上3枚）。進行役補助として、参加者の発言をメモするプロジェクトのフィールドコーディネーター（下）

*Ho! はオロモ語でHoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことで。

と進行役が告げると、参加者からは、「え、え、え...。」と驚きとため息が...。「でも、うちの子どもは毎日、水を持って行っているわよ。どういうワケ？」と思わず声をあげる母親の参加者もいました。また「地域内で学校に通っていない学齢児童の数はいくつ？」というクイズでは、学校は「統計がない」との理由から、「わからない」という記述の1番を選択しましたが、パート2で、この番号が告げられると、今度は STEO の行政官が「統計は STEO にある。『わからない』というのはあり得ない。」と反論。学校側は「地域住民と協力して不就学児の現状把握に努める」ことを今後の取り組みとしているので、今回の研修がきっかけとなって、学校・地域住民・STEO の協働を通じてどのように不就学児童を支援していくか、今後の展開を期待したいです。

ボレ小学校でのトライアルは、「Discover our school」が学校側の分析を通じて、教員同士、そして学校と地域住民とが学校運営についてどのような認識を持っているかを知りあう場として有効であることがよくわかりました。学校側がいかに住民に説明責任を負い、共通認識を深めていけるか、11月22日から始まるファシリテーター研修では、トライアルで得た気づきや反省を十分活かしたいと思っています。

行動計画を早速実施しています！

～ エチオピア参加者からのメッセージ ～

しんぶん前号で JICA 北陸が主催する「サブサハラアフリカ：学校運営改善フェーズ2」研修の一環として10月上旬にエチオピアで行われた在外補完研修についてお伝えしました。研修にエチオピアから参加した西フレカ県教育事務所 (ZEO) のエリアス・ピラトゥ所長と同県グリソ郡教育事務所 (WEO) のトゥファ・タフェサ所長が研修の感想を寄せてくれました。



金沢の学校でエチオピアの文化を紹介するエリアス ZEO 所長(左)。かぶとを作ってお満ちなタファ WEO 所長(右)。

まず、このような素晴らしい機会を与えてくださった JICA と Ho! ManaBU の皆さんにお礼を申し上げます。研修では日本の教育を学んだだけでなく、他のアフリカ諸国からの参加者との交流を通じ、貴重な経験をしました。理論ばかりのエチオピアと異なり、日本では、理論と実践が両立されていること、また、教育統計がしっかり管理されていることに非常に感心しました。

日本に比べて、エチオピアの教育分野では管理職に就く女性はまだまだ少ないですが、状況は好転しています。グリソ WEO でも副所長は女性です。女子教育の改善にあたっては、教員や PTA 代表者の研修を通じて、特に貧しい家庭の女兒を対象としたクラブ設置や、家事などの負担を減らし、勉強時間を確保する大切さを啓発しています。研修中、エリアス所長と共に、「質の高い統計管理能力開発行動計画」を作り、帰国後、勤務地で「正確なデータベース管理ワークショップ」を実施しました。ワークショップには、郡内 41 校から CRC (クラスター・リソース・センター) 担当官・校長・主任・PTA 代表など 232 人の教員が参加しました。私たちの勤務地は Ho! ManaBU の対象地域なので、今後もプロジェクトの皆さんと連携しながら、域内の学校運営改善に努めたいと思っています。

着任しました！(戻ってきました！)

はじめまして。11月3日に藤目さんの後任として着任した廣瀬悠子です。オロモ名は Bashadu (誇り) です。あれ？この名前どこかで聞いたことがある！とかすかにでも覚えて下さっている方がいらっしゃったらありがたいです。実は私は、2007年に前教育案件の ManaBU プロジェクトの業務調整専門家として着任しており、今回は3年ぶりのエチオピアです。「アディスアババの発展はすごいよ」と着任前に聞いていたので、楽しみに来ました。確かに、建設ラッシュには驚きましたが、町並みは私がいた3年前とあまり変わらず、日々懐かしい気持ちでいっぱいです。ただ、プロジェクトオフィスは劇的に変わりました。ManaBU プロジェクトの頃のオフィスは、プレハブの建物、寒くて寒くて、毎日足に毛布を巻き、ヒーターをつけて凍えながら仕事をしていました。さらに、ねずみちゃんの住処になっていたオフィスでは、ねずみ退治は日常茶飯事でした。ところが！Ho! ManaBU プロジェクトオフィスに来てびっくり！なんと美しい外観(基準が前回のプロジェクトオフィスですが)。オフィスの中も日の光が差し込みとても快適です。そして何よりもお手洗いが水洗！すばらしい変化に感謝しています。また、ManaBU プロジェクトと一緒に仕事をしたスタッフ、OEB 関係者や業者の皆さんと久々の再会を果たすことができ、とても嬉しく思っています。

さて、プロジェクトは11月22日から始まる TOT 研修に向け、いよいよ準備が大詰めに入っています。藤目さんが帰任されて1ヶ月あいたこともあり、できる限り早くプロジェクトの力になれるよう、頑張りたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。